



私も 応援 します

乗客乗員 520 名もの犠牲者を出した 1985 年 8 月の日航御巣鷹山事故。ニュースから流れる事故現場の光景は、当時未成年だった私の記憶から未だ離れない。山崎豊子さんの「沈まぬ太陽」を読んだ時も衝撃だった。あれだけの長編小説を一気に読み尽くしたのは人生初の経験だった。私にとって御巣鷹山事故は、遠巻きに絡み合いながら、それでいて自分自身と無関係ではない、人の命の重みとそれを守るべき航空運輸業界の有り様を生涯に渡って考えさせられる衝撃的出来事だった。

JAL の不当解雇撤回争議団の林さんや大池さんとの出会いは、その感覚をさらに深めるものとなった。「もう一度空へ」、四国でも闘いを続けてきた皆さんの諦めない思いに心打たれ、長いおつきあいになる。JAL の闘争を励ます意味で購入した「9 条バッジ」は、いつも私の胸にあり逆に励まされ続けている。

私は今、四国比例から国会を目指して四国を駆け回っている。とりわけ四国の空を爆音で飛び回る米軍の低空飛行問題は四国中の大問題となっている。学校も保育所もお構いなしに頭

上を飛び、子どもたちが恐怖で怯えている。前に林さんから戴いた「安全な翼を求めて」の本にも、日本の空は米軍機天国という記載があり、沖縄の空は安全よりも米軍機優先だと暴露されていたが、「沖縄の負担軽減」という言葉の下で全国の空が危険にさらされている。

私は元々医療従事者だっただけに命が何より大切だと思っている。JAL闘争、米軍機問題、コロナ禍、根本的共通点は命をいかに守るかだ。政治で守れる命がある。皆さんに学び、私もあきらめない。

「目標に近づくほど、困難は増大する」

JAL不当解雇撤回争議団
松山市在住 林 恵美

首都圏を中心にコロナ禍による緊急事態宣言が発令された。市民の行動は制限される一方で東京五輪は世論調査によると 7 割が反対している中でも強行実施されるらしい。驚くのは IOC の VIP は一泊 300 万円の部屋が提供されるとの報道。

6 月 1 ~ 4 日に実施した四国キャラバンでは今年も JAL 不当解

雇撤回と全国一律最賃 1500 円の実現を訴えた。時給 1500 円は年収になると 250 万円に過ぎない。IOC の VIP 待遇とのあまりの違いに愕然とする。

6 月 17 日、第 72 回株主総会へ今年も参加。ある株主が「役員契約制客室乗務員が一人で不当な雇止めと闘っていた。その後輩が私達に解雇通知を送った JAL 側の弁護士の月収 560 万

円を聞いて「私の年収の 2 倍以上です」とつぶやいた。今も耳から離れない。

トラされた人達のために使ったらどうか?」と動議提起。

(裏面に続く)

連帯こそ社会の要

市民も労働者も連帯して行動しない限り理不尽な格差は広がるばかりだ。

不当解雇撤回闘争は10年半が過ぎたが、JAL経営陣は未だに全面解決策を提示していない。前社長が「自分の代で解決する」と発言してから既に3年

以上が過ぎた。現社長は「心から解決したいと思っている」とめに日本最大のJAL不当解雇発言。しかし提示されるのは、争議を勝利することは至上命題地上職への採用のみ。正社員だとなっている。労働者や社会的が一年ごとの嘱託採用4名が実績。客室乗務員は1名が採用され、権力を持つ者はやりたい放

れたが部署は不明（乗務職では題では社会が崩壊する。

ないから復職とは言えない）。

4月4日、これまで非組合員

だつた元機長3名がJAL被解雇者労働組合を結成し5月12日

東京都労働委員会へ提訴した。

6月24日、JALと初の事務折衝が行われ争議の全体解決へ向

き乗員組合、キャビンクルー、ニオンとの共闘を実現したい。

解雇自由の社会を許さないた
ら解決したいと思つてゐる」と
めに日本最大のJAL不当解雇
発言。しかし提示されるのは、争
議を勝利することは至上命題
地上職への採用のみ。正社員だ
となつてゐる。労働者や社会的
が一年ごとの嘱託採用4名が実
弱者にのみ自己責任を押し付
け、権力を持つ者はやりたい放
難を乗り切る手段であるとい
う

ことだろう。

英國元首相サッチャー氏が言つた「社会などと言うものは存在しない」は、ジョンソン現首相がコロナに感染し生死をさまよつた体験から「社会」というものはまさに存在する」と発言し、否定された。人々の連帯や共同で、こそが社会であり、目の前の困難を乗り切る手段であるという

ことだろう。

知の巨人ゲーテの格言「目標に近づくほど、困難は増大する」にあるように、現実の困難を乗り越えた先に明るい社会があるに違いない。目の前の労働者の連帯の前進を期待しつつ。

